

# Dr.オリゼフェルテラグレート<sup>ドクター</sup> 粒剤

クロラントラニリプロール…………… 0.75%  
 チフルザミド…………… 3.0%  
 プロベナゾール…………… 24.0%  
 鉱物質微粉等…………… 72.25%

【毒性】 普通物 【有効年限】 3年 【包装】 1kg × 12袋、9kg × 1袋 農林水産省登録 第23202号

## ●特長

1. 育苗箱施用で、水稲初期・中期の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ等を同時防除できます。
2. 育苗箱当たり50g施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
3. 育苗箱施用だけでなく、側条施用、直播同時土中施用もできます。

## ●適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農業の総使用回数	チフルザミドを含む農業の総使用回数	プロベナゾールを含む農業の総使用回数
湛水直播水稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)
稲			移植時		側条施用		3回以内 (直播ではは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

(令和3年10月27日現在の登録内容)

## ●使用上の注意事項

- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守る。
  - ①育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としのち、十分灌水する。
  - ②稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさける。
  - ③軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
  - ④処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意する。
  - ⑤処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
  - ⑥本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守る。
  - ①専用の移植同時施薬機を用い、側条施用する。
  - ②移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
- は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさける。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行う。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。